

三月は卒業式のシーズンである。当院附属看護学校でも先日、卒業式を執り行った所であり、病院長が附属看護学校長を兼ねることから、小生が式辞を述べ、卒業生を送り出した。

看護の世界は、看護婦・士の称号が「看護師」と改正され、昨今の医療技術の進歩や高度化・複雑化と相俟って、専門職として質の高い医療知識や看護技術の習得が必要な

# 舞台

時代となっている。

このように履修すべき知識量・技術量の増加に加え、さらに患者さんを取り巻く医療環境の変化により、看護師としての使命感、倫理観、そして幅広い豊かな人間性と思考力をも、現在の看護学生は身に付けなければならない。

当校の学生は三年間という限られた時間にこれらの課題達成のため昼夜を分かたず必死に勉

## 看護を担う若者たち

学に励み、また教職員や医師、実習看護師の懸命の指導のお陰もあって、この厳しい教育課程を修了し卒業という価値ある栄冠を勝ち得たのである。その努力と情熱にあらためて敬意を表するものである。

卒業式では従来、戴帽式で行われる「灯火の儀」をも式次第に組み入れられた。金沢医療センターのナースキャッ



こじま やすひこ  
小島 靖彦  
金沢医療センター 院長

プ廃止により、戴帽式が行われなかったことによるものであるが、厳粛な雰囲気の中での「愛の灯火」を掲げながらの卒業式は感動的でもあった。

四月には院長として、当校卒業生を含め多くの新人看護師を受け入れることになる。病む人の立場に立った個性のある看護の提供ができるよう成長して欲しいと願っている。(金沢市)